

都市環境デザイン会議関東ブロック
第4回“ひとことサロン”のご案内

- 話 題 : 「ランドスケープデザインのこれまでとこれから」
- 話題提供者: うえやま りょうこ 上山 良子 [(株)上山良子ランドスケ - プ研究所]
さ さ き ようじ 佐々木葉二 [鳳コンサルタント(株)環境デザイン研究所]
- コーディネーター: 八木 健一 [八木造景研究室]
- 日 時 : 平成16年6月15日(火) 19:00~21:00
- 会 場 : 建築家会館本館・小ホール (JIA館1階)
渋谷区神宮前2-3-16 電話 03-3401-6281
- 参加費 : 会員無料、非会員1,000円
- 参加申込み: ファックスまたはEメールにて下記にお願いします。
(株)横川環境デザイン事務所 横川
FAX 03 - 3732 - 9947 E-mail yedo-yokokawa@mvd.biglobe.ne.jp
(株)日本都市総合研究所 高見
FAX 03 - 3230 - 3408 E-mail takami@nihon-toshi.co.jp

話し手からひとこと

上山 良子

その土地にしかない場所を創ることが場づくりを生業にするランドスケープの使命と考えている。日本には縄文の時代から我々のDNAにすりこまれた、「自然と共生する」デザイン能力があるはずである。その土地の記憶の糸をたどってコンセプトを導きだすのも一つの方法であろう。もっとも大切なことは創る場が時代を読んだ、場を読んだ、人をよんだ新しい名所として世界へ発信出来ることと考えている。そろそろ日本発のアーバンデザインの時代であろう。

佐々木 葉二

ランドスケープアーキテクトの使命は、物言わぬ風景に三次元の言葉を与え、語り出させることである。ランドスケープデザインの対象は、水平方向に展開する二次元の敷地にすぎない。しかし、この二次元の平面を三次元の空間に変容させる「力」にこそランドスケープデザインの本質がある。私は自己の作品を通じて、このデザインの本質に迫るべく、二つのキーワードに基づいて解答を試みてきた。それは、「場所をつくる」と「動詞で考える」である。それらは、日、米、欧、アジアでの体験が私に教えてくれた魅力的な手がかりであった。

八木 健一

- ・我が国のランドスケープデザインの世界はこの30年ほどの間にかなりの進歩と
いうか、変化があったと思いますが、上山氏、佐々木氏のお二人ともアメリカから
帰国されたあと、どのように感じ、どのように活動してこられたのでしょうか？
- ・日本の伝統的な造園感覚と新しいランドスケープデザインはどのように協調する
べきでしょうか？
- ・これからは「環境」や「景観」が重要な課題になりつつありますが、私たちは今
後どのような哲学を持つべきなのでしょうか？